

つばめ通信



特集

生活相談員によるご自宅訪問開始！ 機能訓練指導員の目指す機能訓練とは！

目次

P2

特集① 生活相談員による
ご自宅訪問開始！

P3

特集② 機能訓練指導員の
目指す機能訓練とは！

P4

妙高の里の夏祭り



社会福祉法人 新井頸南福祉会
妙高の里デイサービスセンター
妙高市高齢者生活福祉センター

〒949-2232

新潟県妙高市

大字葎生531-1

TEL: 0255-82-2070

FAX: 0255-82-2125

URL: <http://www.araikeinanfukushikai.or.jp>

スマートフォンで見る



スマートフォン版Yahoo!ブログにアクセス！

夏祭り



ワッショイ！ワッショイ！



若葉会様による踊り



大抽選会



ひとくちパクリ・・・美味しいよ



えーい、入れ！！



たくさんつかめるかな・・・



7月26日(金)に妙高の里「夏祭り」を開催しました。若葉会様による踊りや大抽選会に大勢の皆様にご足を運んでいただきました。またボランティアの方々のご協力もあり大盛況の中終わることができました。ありがとうございました。

苦情受付

平成31年4月から令和元年8月までの間、苦情の申し立てはございませんでした。今後もサービスの向上に努めてまいります。ご遠慮なくご意見をお寄せください。

編集後記

猛暑だった夏いつの間にか過ぎ、朝晩はめっきりと涼しくなってきました。皆様も体調を崩さないように気をつけてください。



膝関節の内外転運動!



一緒に頑張りましょうね

●機能訓練の役割とは
現在、日本人の平均寿命は女性八十七歳、男性八十一歳と、世界でもトップクラスの長寿国です。しかし、日常生活に制限がなく生活できる期間(健康寿命)は約七十四歳で、その後の約十年間は日常生活に何らかの制限や支障がある生活が想定されます。その十年をいかに短く、ストレスなく過ごせるかが課題であり、誰もが思う願望であるといえます。支障のある行動とは、その人自身やそのご家族のとらえ方によって様々あります。具体的には、「一人がトイレを済ませたいけど、ズボンが上げられない」

●機能訓練の内容とは
①身体状態の観察
体の痛みがどの程度あるのか、筋力や体力がどのくらいあるのか等を分析し、身体の状態を把握します。
②ご本人・ご家族の想いを尊重
ご本人、ご家族のご意向、お気持ちを尊重し、内容に反映します。
③自宅訪問と計画作成
ご希望に沿った生活が実現できるように、自宅を訪問させていただき、ご自宅での生活を想定した訓練計画を作成します。私自身が、ご本人の生活の場を把握し、具体的な目標と訓練内容を共有します。

特集②

機能訓練指導員の目指す機能訓練とは

〜あたり前だったあの頃を取り戻す〜

通常型

「お風呂に入りたけれど、またげない」「二階に洗濯物を干しに行きたいけど、階段が昇れない。」など、どんな行動でもストレスに感じてしまえば、生活の妨げとなります。「支障がある」ととらえてしまいます。その支障のある行動とうまく付き合い、改善を目指し、以前は当たり前前のようにできていた生活行動を取り戻していくことが機能訓練の役割だと私は考えています。



機能訓練指導員 高嶋 一治

④訓練の実施と評価
小集団で訓練を実施します。具体的な訓練には、椅子からの立ち上がり訓練、階段昇降訓練、硬くなったところのみほぐし等、自宅での生活を想定した訓練を実施します。また、三カ月ごとに体力測定を行い、訓練の効果を実感していただきます。新たな取り組みとして、認知症の予防と脳の活性化を目指し、二つの行動を同時に行う(二重課題運動)訓練も取り入れていきたいと考えています。
さあ、私と一緒に機能訓練をして、あたり前だったあの頃を取り戻しましょう!

特集①

生活相談員がご自宅訪問開始

〜生き活きと活動する様子を直接お届け〜

認知症型

●伝えたい「想い」

私が日々、ご利用者やご家族との情報交換の中で感銘を受けていることがあります。それは、認知症対応型をご利用されているご家族の熱心な連絡帳の記載です。強制では無いにも関わらず、ご利用者ご本人に代わって、毎回記載してくださる方も少なくありません。私達もその想いに応えられるようにと、詳細な報告を心掛けていますが、伝えきれない事実があり、同様にご家族にはそれ以上に綴りきれない想いがあるのではないかと考えました。



貴重なお話を聞かせていただきました。

●改めて感じる 人生を支えるということ

日々の生活を一緒に支援させて頂いている私達が足を運び、私達だからこそ、受け止められるものがあるのではないかと考え、家庭訪問活動を実施することにしました。
最初の訪問活動の対象者A様のお宅に伺った際の様子です。ご家族からA様のお話を伺うと「昔はサンダラスが好きでね、沢山持っていたんです」「本が好きで、松本清張作品なんて語らせたらうるさいんだ」などざっくりばらんにお話をさせて頂き、ご家族のA様に対する想いが聞かれ、当初の予定時間の三十分を超えてしまいました。A様のこれからのことについて「一日でもいいから長く生きて欲しい」と明確なご家族の気持ちを受け、私たちはこの願いにしっかりと応えていかねばならないと強く感じました。訪問活動についての感想を伺うと「良い取り組みだと思えます。これからのみんなで行なってください」といった期待の声を頂きました。



認知症対応型 生活相談員
リーダー 山本 裕毅

●大切な家族とこれから

大切なご家族を住み慣れた家で介護していきたくてという介護者のための想いを実現していくためには、サポートする医療・保健・福祉サービスが存在が不可欠です。認知症を発症されたご本人のつらさや不安、そして介護する方の負担感はずいぶんありませんか。体が元気だからと道に迷ってしまったり、家族のためと思って料理をしたら鍋を焦がしてしまったり、といったエピソードがあったりもします。ご本人の想い、ご家族の想い、私たちサービス事業者から伝えたいことやサービス利用の要望など、これからの対峙していきたいと思っています。